

2014年1月7日

株式会社 リクルート マーケティング パートナース

入試制度に関する学長調査(2013)

**学長の約9割が自校の学生の「学力・意欲・定員確保」に課題感
学習意欲の高い学生確保のための独自入試が「ある・検討中」は約7割
学事暦のトレンドは「秋入学」より「クォーター制（4学期制）」を検討**

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ(本社:東京都千代田区 代表取締役社長: 富塚 優)が企画制作するリクルート『カレッジマネジメント』は、東京大学大学院教育学研究科の両角亜希子准教授と共同で、大学が教学経営的な観点から入試制度にどのような課題認識を持ち、今後どういった方向性を目指しているかを明らかにするため、全国の大学の学長を対象に「入試制度に関する学長調査(2013)」を実施しましたのでご報告いたします。

■学長の約9割が、現在の自校の学生に「課題がある」と回答。

- ・「学力」は85.3%、「学生の意欲」は71.1%、「定員の確保」は64.3%が課題と認識。
- ・最も重要な課題は「偏差値の向上」(27.2%)がトップ。次いで「自宅通学生確保」(21.7%)「高校の到達度の低下」(19.8%)。

■今後増やしたい入試は、国立で「AO入試」、公立で「留学生入試」、私立で「一般入試」。

- ・現在行っている入試の入学割合は、国立と公立で「一般入試」が7割以上を占める。私立は「一般入試」(42.0%)「推薦入試」(40.4%)に二分、「AO入試」(15.4%)も高い。
- ・今後増やしたい入試選抜方法は、国立で「AO入試」(23.3%)、公立で「留学生入試」(19.2%)、私立で「一般入試」(63.3%)がそれぞれトップ。

■約6割が「入試の工夫で意欲の高い学生を増やせる」と考えている。

- ・国立(70.0%)が最も多く、公立は66.0%、私立でも54.8%と半数を超える。

■学習意欲の高い学生を確保するための独自入試が「ある」大学は約5割(51.3%)、 「行う予定(決定済)」・「検討中」の大学は約2割(19.0%)。合わせると約7割(70.3%)。

■日本の大学入試全体が抱える問題については、入試の負荷を問題とする項目が約5割、 学力を問題とする項目が4割以上。

■アカデミックカレンダー(学事暦)のトレンドは「秋入学」より「クォーター制(4学期制)」を検討

- ・学事暦の変更を「実施している」「変更予定(決定済)」「検討中」の大学は35.9%
- ・「セメスター制」と「秋入学」の実施・変更予定が多いが、「検討中」では「クォーター制(4学期制)」がトップ

【お知らせ】

調査結果の詳細なデータは、2014年1月1日発行の『カレッジマネジメント』184号に掲載されています。
同Webサイトには1月10日に全文アップいたします。(http://souken.shingakunet.com/college_m/)

※出典・印刷物へデータを転載・引用する際には、クレジットとして下記のようにご明記ください。

“「入試制度に関する学長調査(2013)」リクルートカレッジマネジメントと東京大学 両角亜希子准教授調べ”

リクルートマーケティングパートナーズではこれからも、ひとりひとりにあった「まだ、ここにはない、出会い。」を届けることを目指していきます。

【本件に関するお問い合わせ先】

https://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/

調査概要

■ 調査目的

大学が教学経営的な観点から入試制度にどのような課題認識を持ち、今後どういった方向性を目指しているかを明らかにすること。

■ 調査対象

全国の大学745校※の学長

※全大学数782校(2013年度学校基本調査速報値)のうち、大学院大学と募集停止校37校を除く。

■ 調査方法

質問紙による郵送法

■ 調査期間

2013年8月28日(水)～9月20日(金)

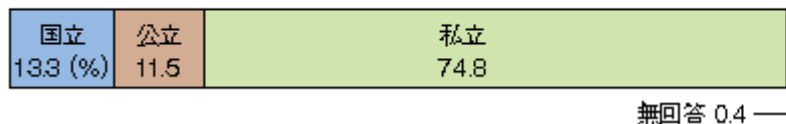
■ 有効回答数

452校(回収率60.7%)

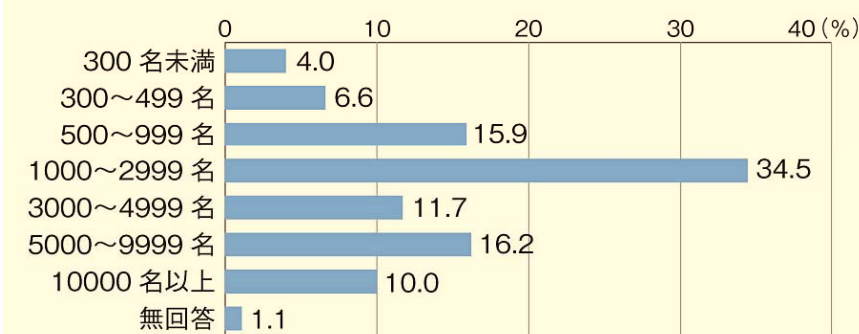
※無回答を含まない集計結果を提示している。

回答者プロフィール

■ 設置形態(回答プロフィール)



■ 定員規模別(規模別回答校)



定員確保、学生の学力と意欲への課題意識

■約9割(89.3%)の学長が、現在の自校の学生について「課題がある」と回答。

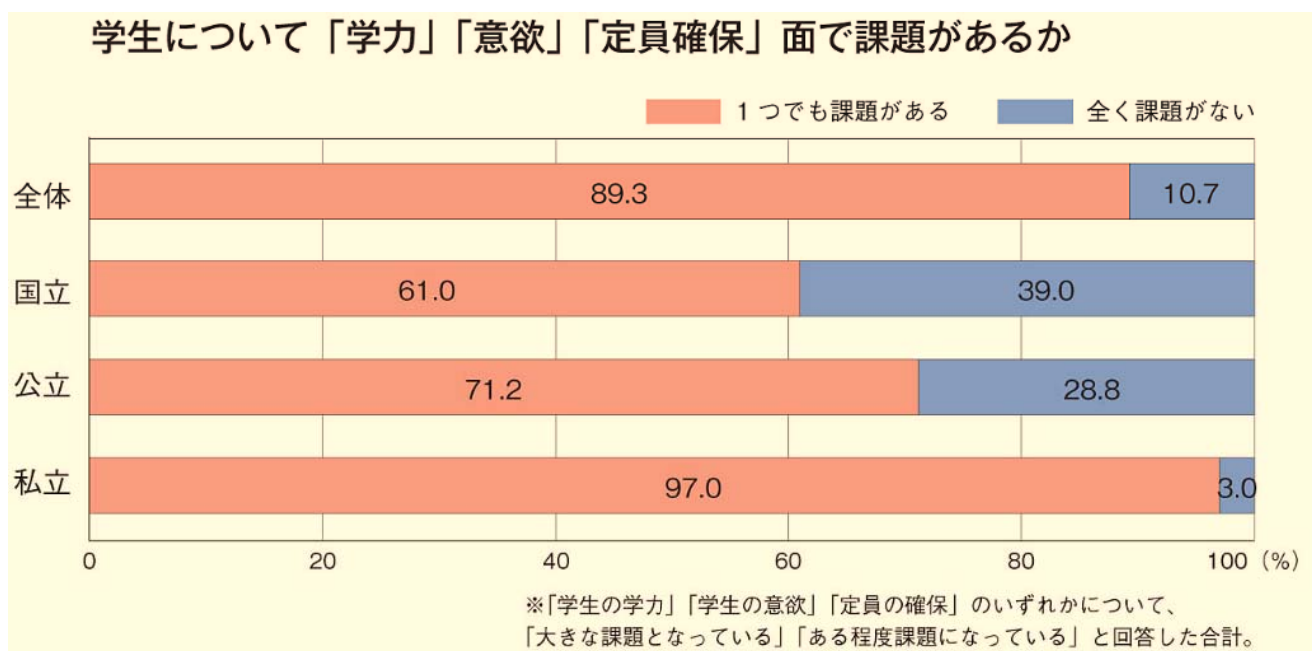
■「学力」は85.3%、「学生の意欲」は71.1%、「定員の確保」は64.3%と、多くの大学で課題と認識。

■最も重要な課題は「学力」と「地元学生の確保」に関する事項。

・「偏差値の向上」(27.2%)がトップ。次いで「自宅通学生確保」(21.7%)、「高校の到達度の低下」(19.8%)。

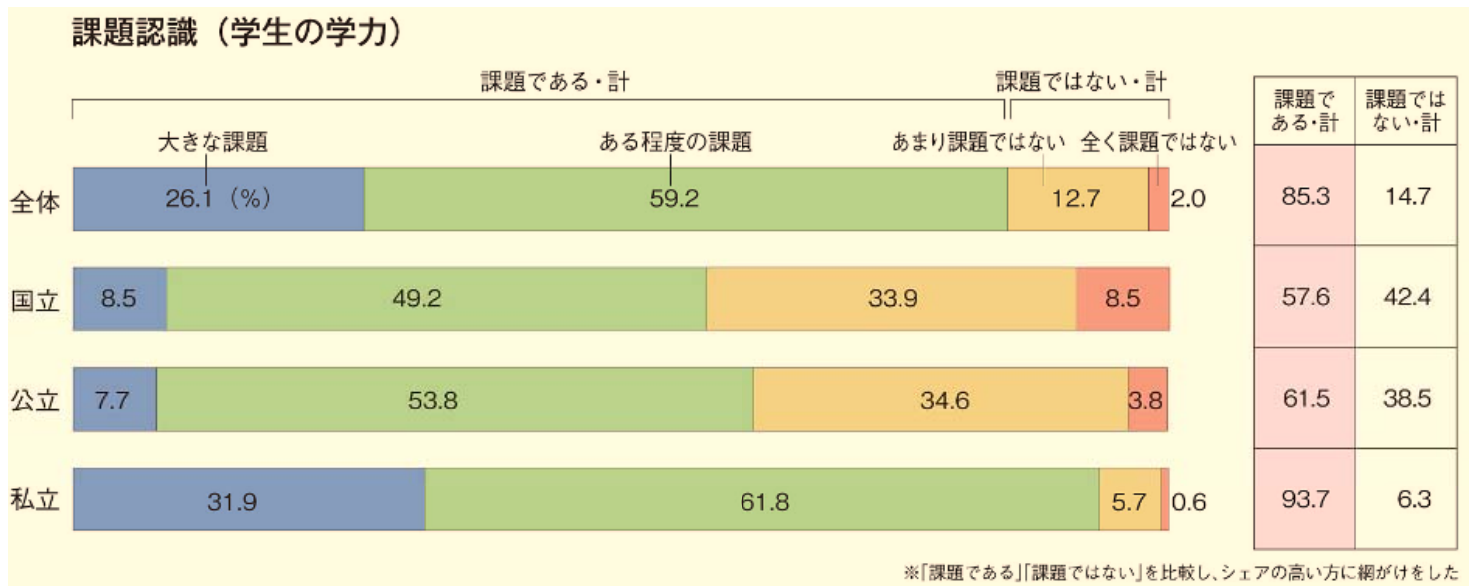
■ 自校の学生についての課題

～約9割(89.3%)の学長が、現在の自校の学生に「課題がある」と回答。



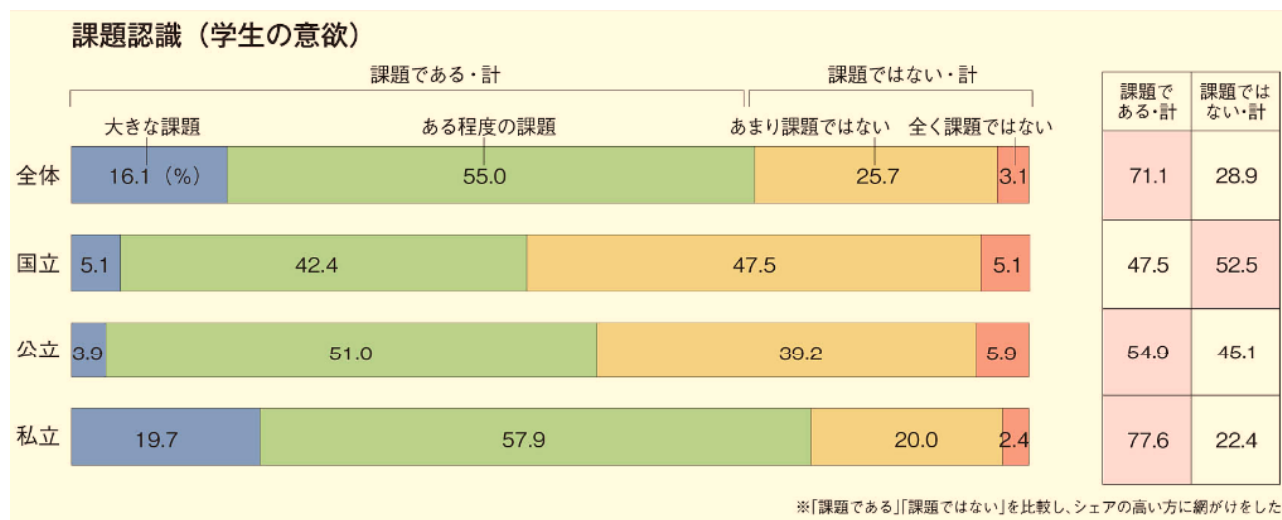
■ 「学生の学力」に対する課題意識

～8割強(85.3%)が「課題」と認識。私立は93.7%を占め、約3割が「大きな課題」。



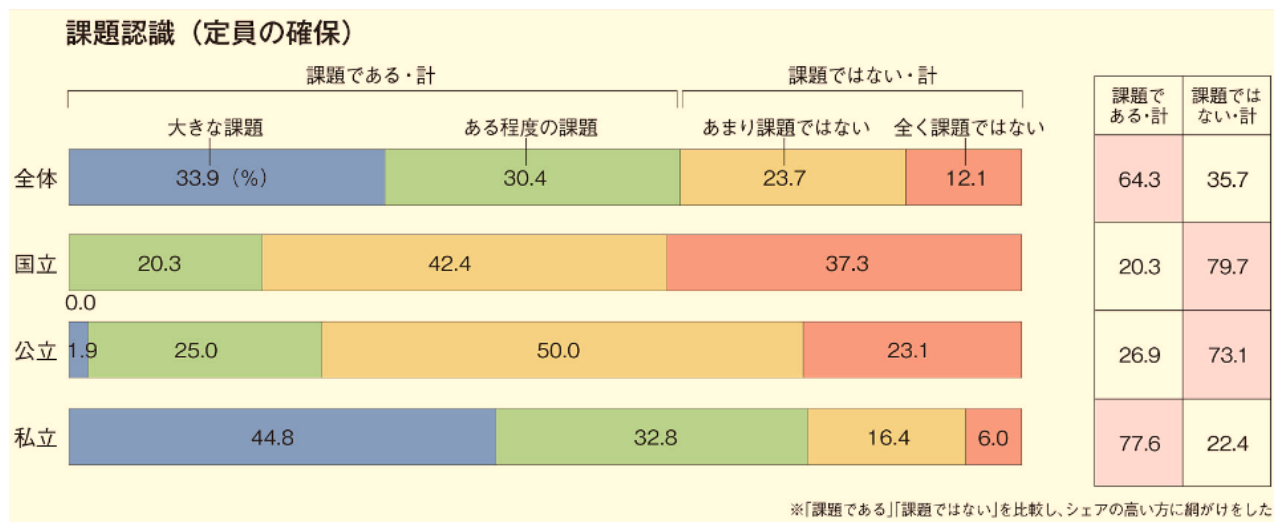
■「学生の意欲」に対する課題意識

～約7割(71.1%)が学生の意欲の不足を「課題」と認識。国公立は5割前後にとどまる。



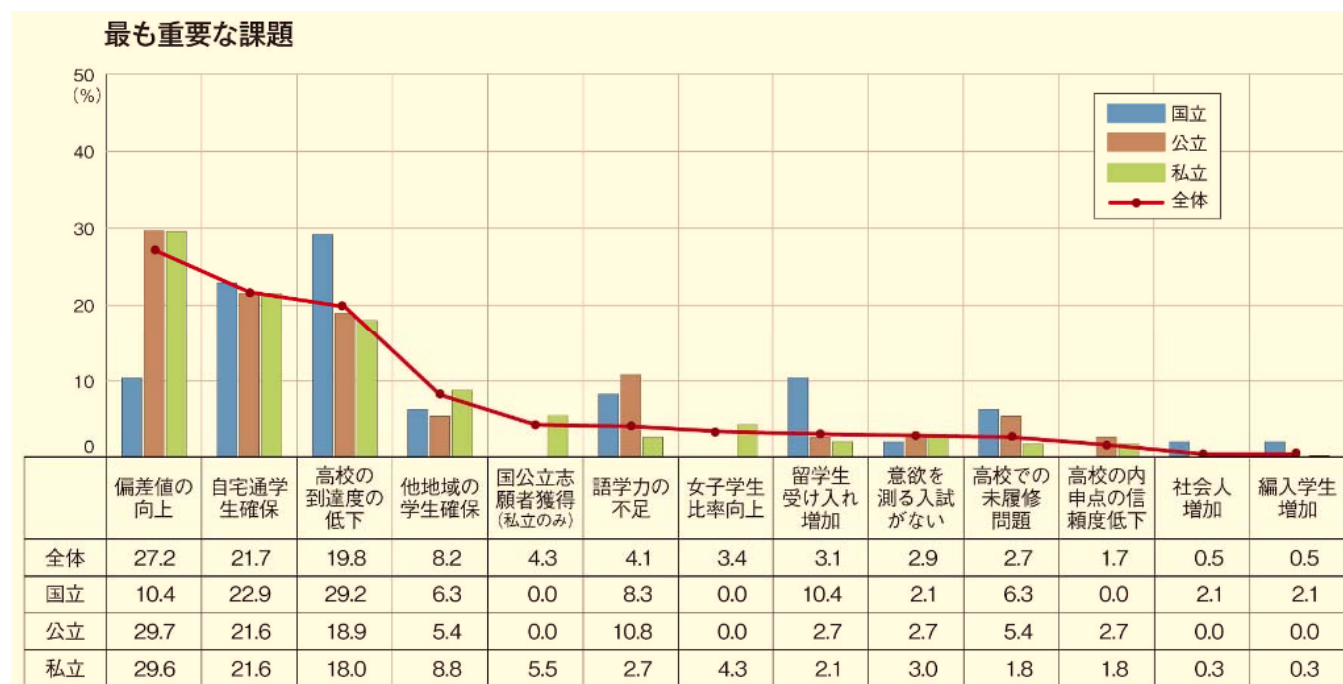
■「定員の確保」に対する課題意識

～6割強(64.3%)が「課題」と認識。私立の77.6%に対し、国公立は2割強と低い。



■最も重要な課題は「学力」と「地元学生の確保」

～国立は「高校の到達度の低下」(29.2%)、公立・私立が「偏差値の向上」(29.7%・29.6%)がトップ。



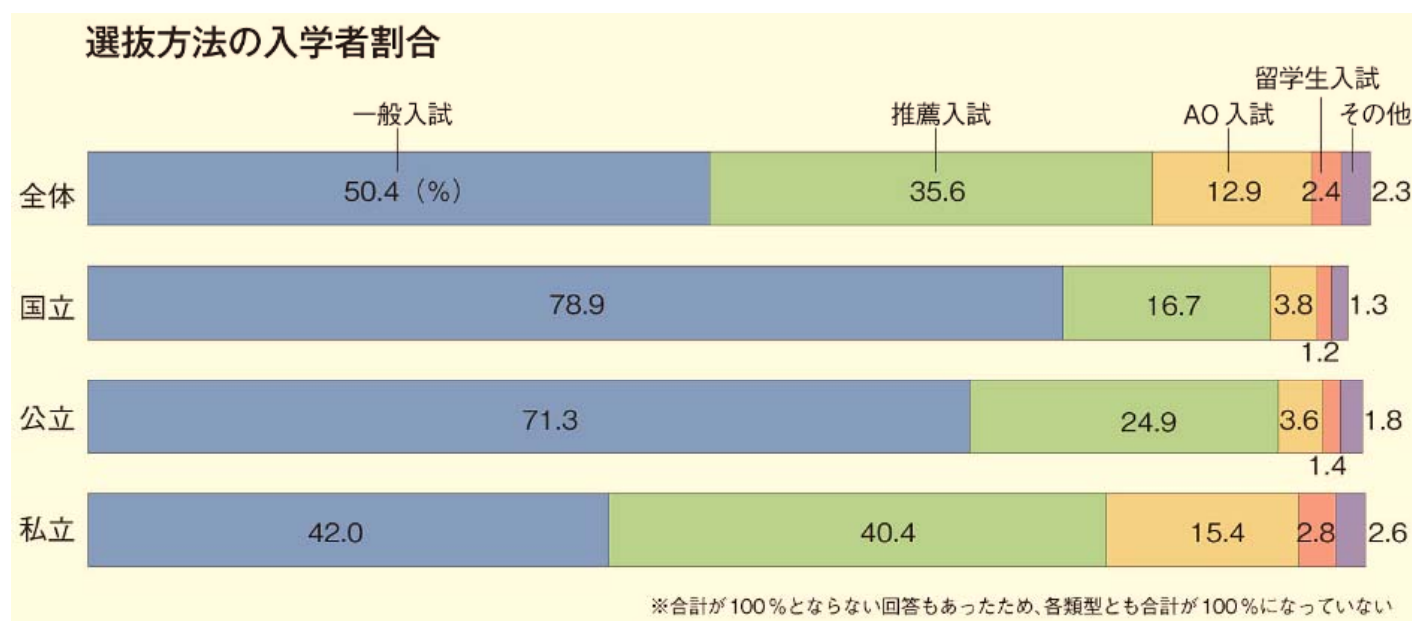
現在行っている入試方法と、今後増やしたい入試方法

■現在行っている入試の入学者割合は、国公立で「一般入試」が7割以上を占める。
私立は「一般入試」(約4割)、「推薦入試」(約4割)に二分、「AO入試」(15.4%)も高い。

■今後増やしたい入試は、国立で「AO入試」、公立で「留学生入試」、私立で「一般入試」がそれぞれトップ。

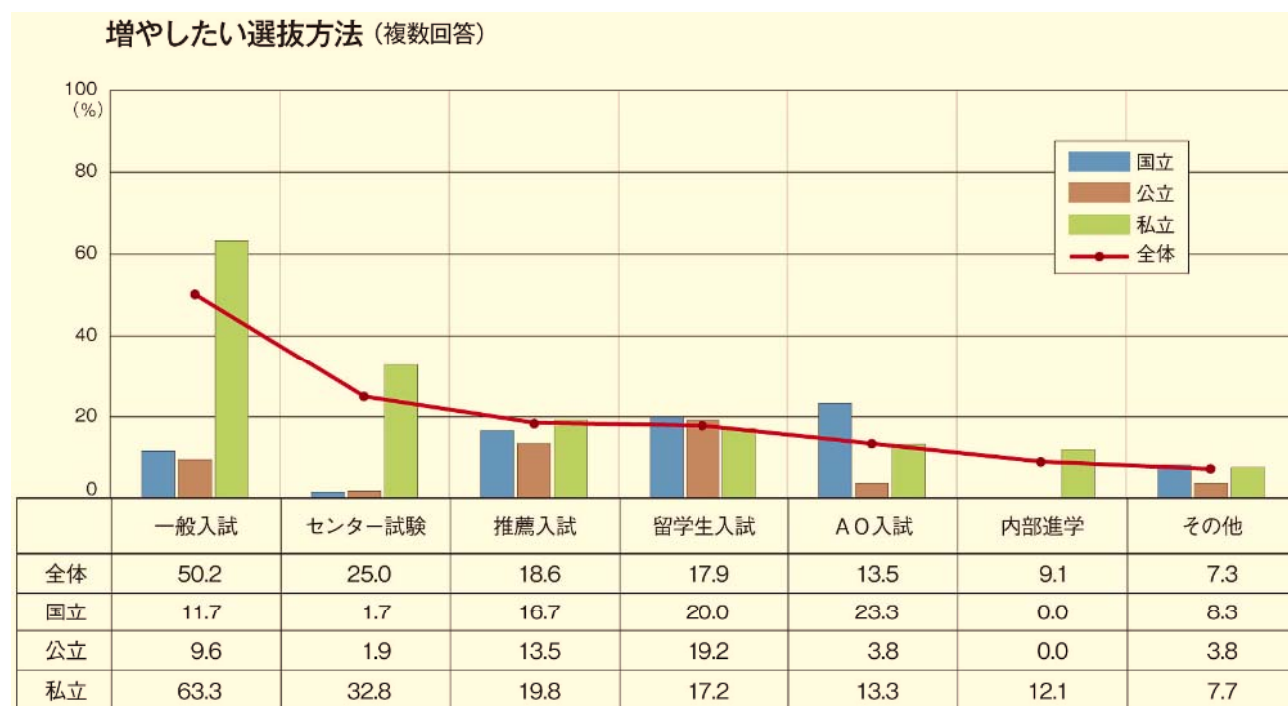
■現在行っている入試選抜方法別の入学者割合

～現在行っている入試は、国立(78.9%)、公立(71.3%)で「一般入試」が7割以上を占める。
私立は「一般入試」(42.0%)「推薦入試」(40.4%)に二分、「AO入試」(15.4%)も高い。



■今後増やしたい入試選抜方法

～国立で「AO入試」、公立で「留学生入試」、私立で「一般入試」がそれぞれトップ。



入試の工夫で学習意欲を高められるか

■約6割が、「入試の工夫で意欲の高い学生を増やせる」と考えている。

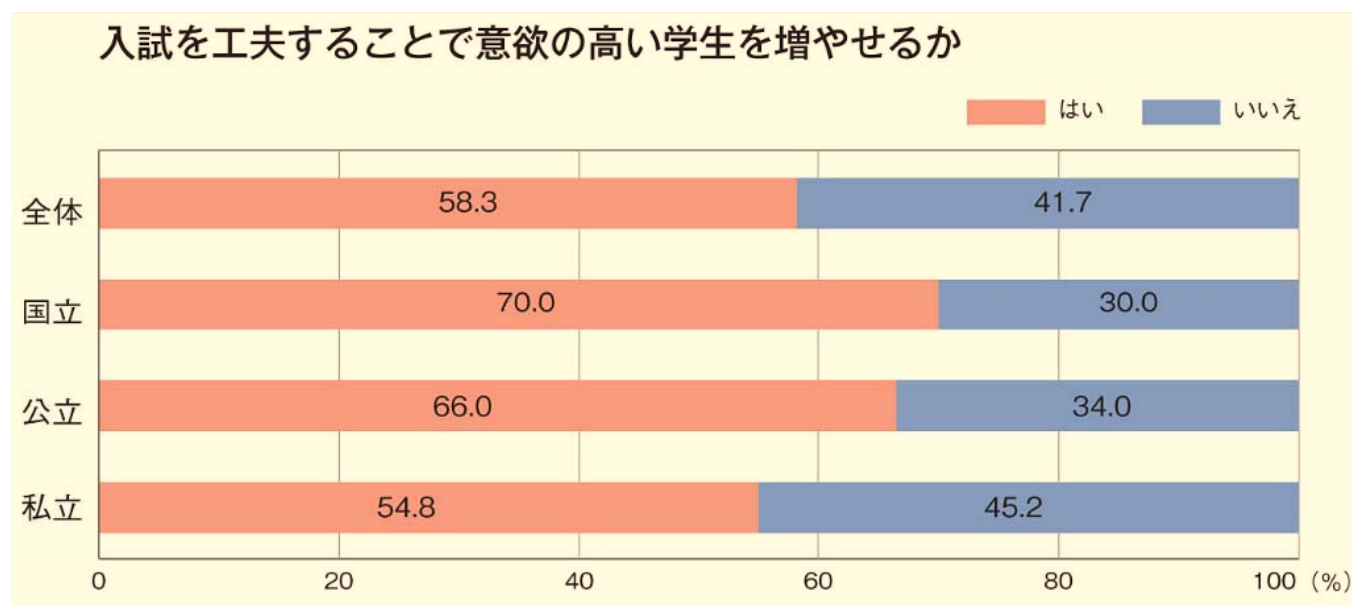
国立が最も多く70.0%、公立は66.0%、最も低い私立でも54.8%と半数を超える。

■学習意欲の高い学生を確保するための独自入試が「ある」、「行う予定(決定済)」、あるいは「検討中」の大学は約7割。

国立が最も多く88.3%。次いで私立が69.2%、公立は55.8%と最も低い。

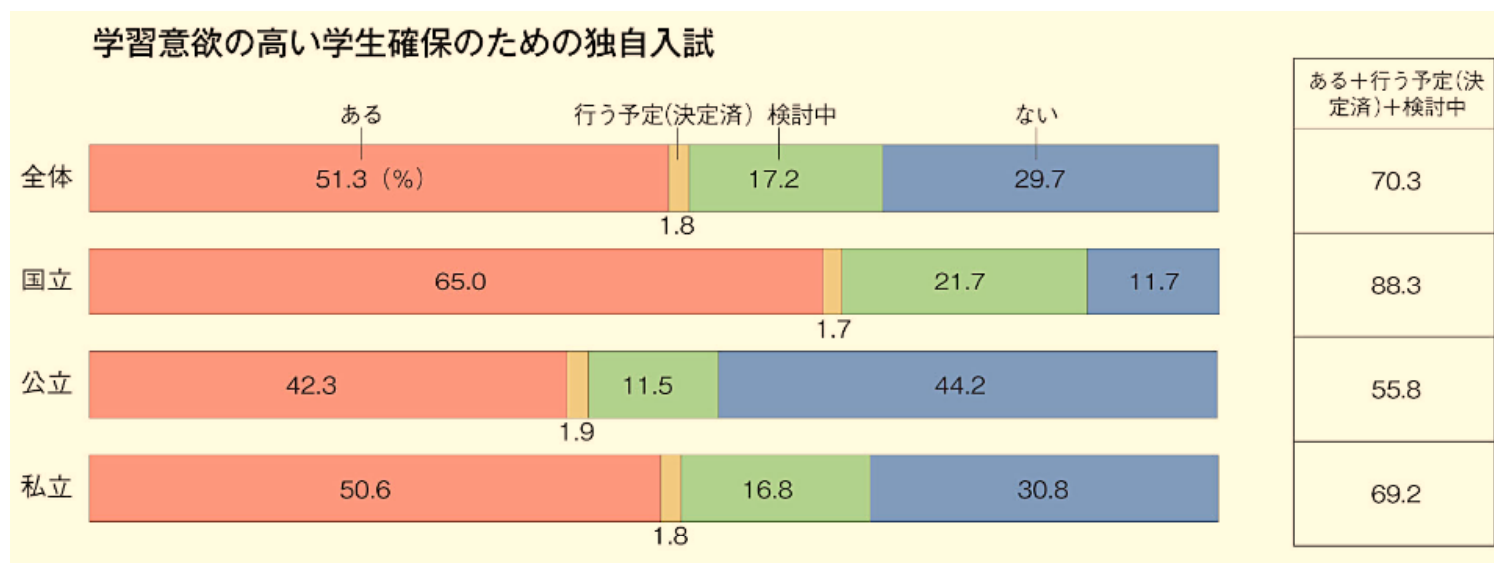
■入試の工夫で意欲の高い学生を増やすことができるか

～約6割(58.3%)が増やせると考えている。国立が7割(70.0%)と最も多い。



■学習意欲の高い学生確保のための独自入試の実施状況

～「ある」「行う予定(決定済)」、あるいは「検討中」の大学は約7割(70.3%)。



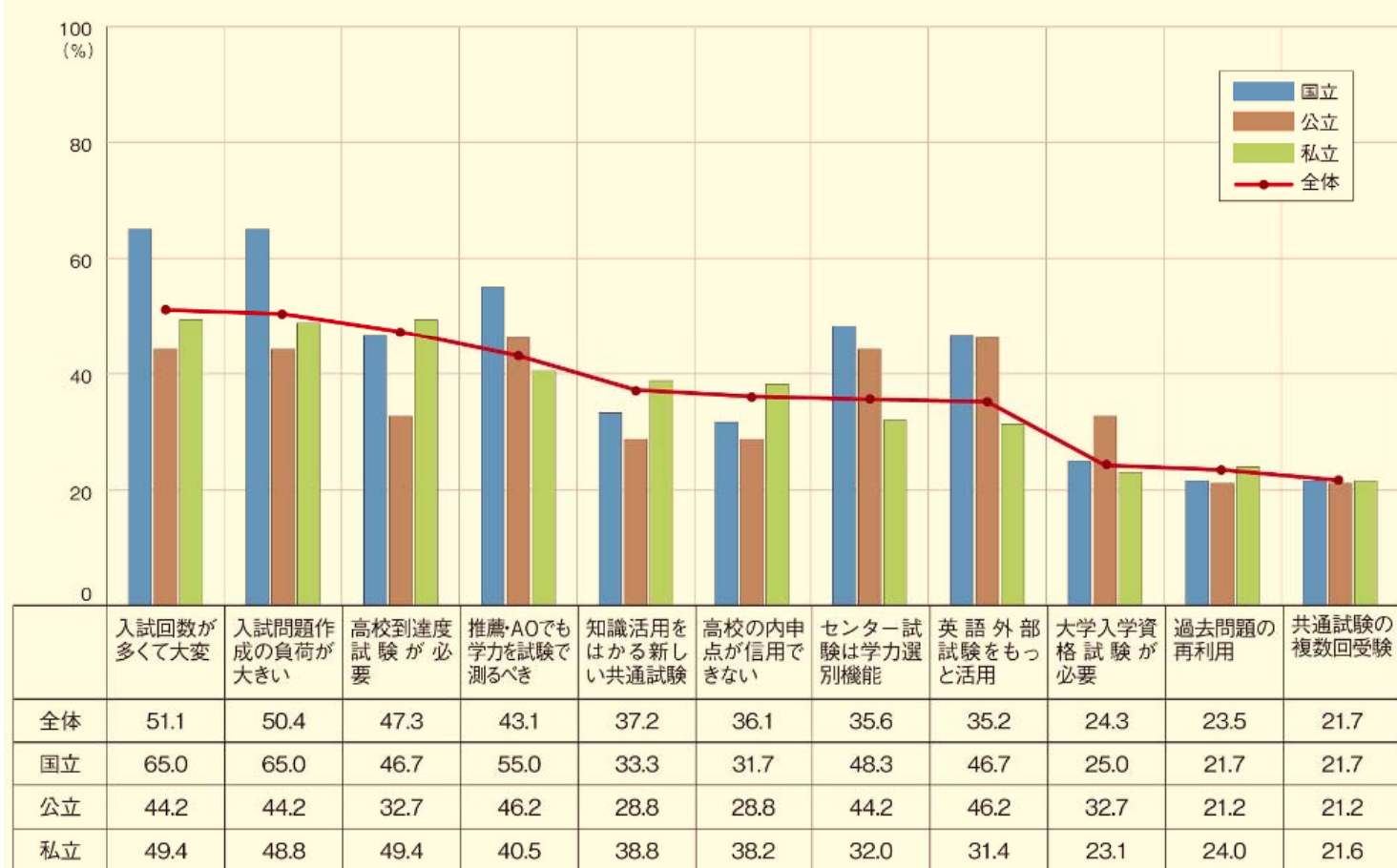
日本の大学入試全体が抱える問題

■入試の負荷を問題とする項目が約5割、学力を問題とする項目が4割以上

- ・入試の負荷を問題とする項目が最も多く、「入試回数が多くて大変」(51.1%)、次いで「入試問題作成の負荷が大きい」(50.4%)。
- ・次いで、学力を問題とする項目が多く、「高校到達度試験が必要」(47.3%)、「推薦・AOでも学力を試験で測るべき」(43.1%)。
- ・「英語外部試験をもっと活用」は、国立(46.7%)、公立(46.2%)で多い。

■日本の大学入試全体が抱える問題

日本の大学入試全体が抱える問題（複数回答）



アカデミックカレンダー(学事暦)の変更状況

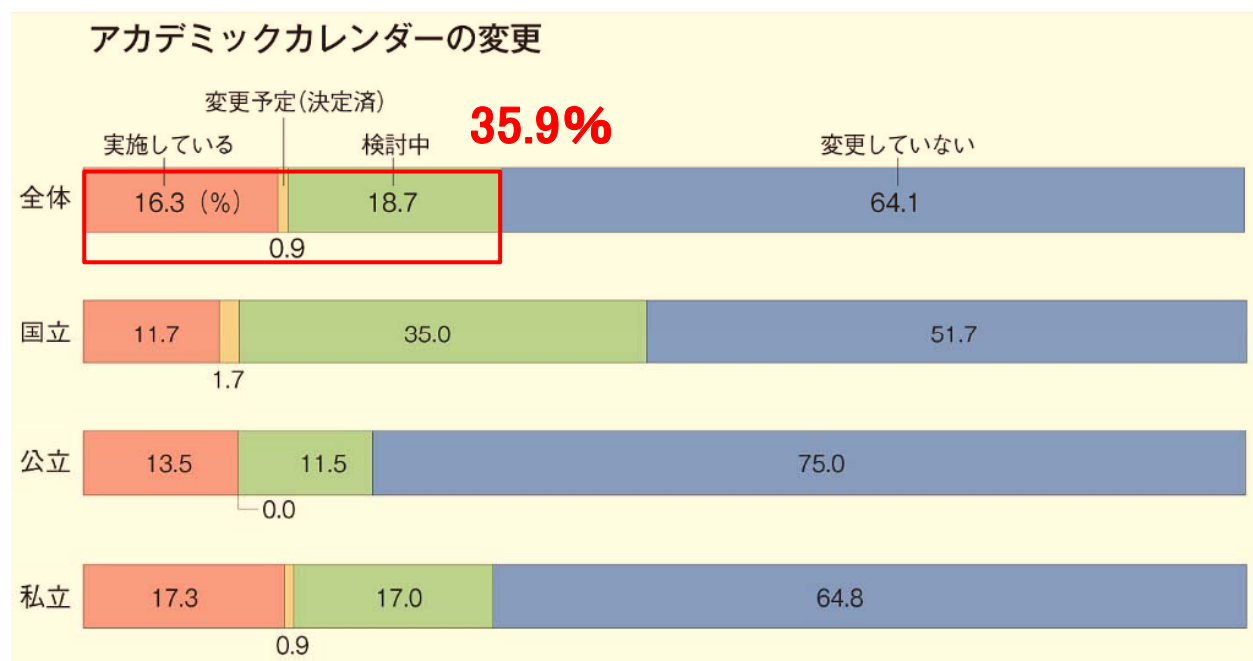
■ 35.9%がアカデミックカレンダー(学事暦)を変更、または変更を検討。

- ・秋入学やクォーター制などのアカデミックカレンダーの変更を「実施している」大学は16.3%。「検討中」も18.7%と2割近くあり、「実施している」、「変更予定(決定済)」と合わせると35.9%に。
- ・国公立別には、「実施している」で最も多かったのが私立で17.3%。「検討中」は国立が多く35.0%。「実施している」、「変更予定(決定済)」「検討中」の合計では、国立が48.4%と最も多い。最も低いのが公立で25.0%、私立はその間で35.2%。

■ セメスター制と秋入学の実施や変更予定が多いが、検討中はクォーター制がトップ。

- ・「実施している」、「変更予定(決定済)」のものは、「セメスター制」(68.8%)、「秋入学」(63.6%)が多い。一方、「検討中」は「クォーター制」(77.4%)がトップ。

■ アカデミックカレンダーの変更状況



■ セメスター制と秋入学の実施・変更予定(決定済)が多い。検討中はクォーター制がトップ。

